

海老名市立杉久保小学校 学校運営協議会 議事録
(令和8年度 第1回)

- 1 日時 令和8年5月18日(月) 9:30~11:00
- 2 場所 海老名市立杉久保小学校 校長室
- 3 出席委員 伊藤健三委員長、岩崎佐容子委員、金子由美子委員、佐藤憲一委員
山室修次委員、和田波代委員、坂田美帆委員、山田優委員、東優也委員

4 会議の内容

(1) 学校運営協議会委員長の選出ならびに挨拶

和田校長：委嘱は、新たに今年度から2年間となる。変わらぬご支援をよろしく願います。⇒委員長に、伊藤健三委員を選出。

伊藤委員長：本校開校時に教務主任として携わり、その後、学校評議員や学校応援団、そして、学校運営協議会の委員として学校の支援をしてきた。気が知れている方々と協力して子どもたちのために頑張っていきたい。

(2) 学校長挨拶

和田校長：今年度4月に異動してきた。地域の皆様のお力添えをいただきながら、杉久保小学校のために尽力していきたい。

(3) 委嘱状交付

和田校長：令和9年度までよろしく願いいたします。また、大谷中学校区としても連携も深めていくこととなります。そちらへのご協力も併せてよろしく願いいたします。

(4) 会議記録公開について

和田校長：学校運営協議会の議事録は、市のホームページで公開となる。

(5) 学校経営方針について

和田校長：配付資料をもとに学校経営方針・グランドデザインについて説明。

大谷中学校区(2小1中)で共通の学校教育目標を立てている。

めざす学校像、市と共に推進するインクルーシブ教育、重点目標、具体的な取り組み(「豊かな人間性の育成」、「確かな学力の育成」、「健やかな心身の育成」の3つの柱)について説明。昨年度まで、取り組んできた人権教育、生命の安全教育、算数の校内研究、地域とともにある学校づくり(子

どもの森学、登下校をはじめとする安全確保、児童についての情報共有、地域行事)についても重点をふまえた取り組みとして実施する。

このことは、4月1日に教職員とともに確認をした。委員の皆様にも承認をいただきたい。

佐藤委員：昨年度までと大きな変更はないということによいか。

和田校長：今年度の大きな変更はない。来年度から3校共通の学校教育目標が変更になる。現在、4つのグループに分かれ、教職員が議論を重ねている。その動きも今後、話題にして共有させていただきたい。

山室委員：杉の子タイムや子どもの森学は、本校独自の取り組みとして、評価されるべきである。基礎学力の定着を図る取り組み(杉の子タイム)には賛成する。一方、ICT機器の活用について、情報モラルをはじめとするセキュリティ面における指導や支援については考えていかなければならないと思う。家庭との連携についても気になっている。情報処理や活用に関する能力が上がることはよいことの一方で、社会的にICT活用による学力低下が問題視される中、杉久保小学校としての特色(子どもの森学を通じた体験学習など)を生かした教育活動をしてほしい。

坂田教頭：ICT活用の負の側面に対する課題意識は教職員と共有している。学校としてもサイバー教室などの学習機会の確保や家庭へのお知らせの配付、SNSをはじめとするネットでのいじめ等の防止を組織的に取り組んでいる。ただ、機器を持ちはじめが低年齢化していることを受け、取り組みの改善については検討課題である。

山室委員：生成AI(ChatGPTなど)もどんどん進化している。

佐藤委員：先生が困るようなことは起きていないのか。

東教諭：以前より、情報をどう活用するかは課題になっている。サイト等載っている文言や表現を理解していないまま「写す」ことはよく見られる姿。引用先を明示することなど権利の学習も併せて行っている。

山田総括教諭：その他にも、国語(引用について)、社会科(資料の分析や活用)、理科(事実と考えを分けてまとめる)など、多くある情報をどう結び付けるかは総合的に指導している。知識と情報を分けて考えることが重要だと考えている。

和田校長：LINEトラブルなどが起こることは容易に考えられる。学校としては、使用のルールを確認している。教職員は、毎年情報セキュリティに関する研修を受けている。

山室委員：小学校から一人一台端末が貸与され、身近になっているが、負の側面について語られる場面が少ない気がする。中学校区の学校運営協議会でも話題になりづらい。ICTの発展に伴い、学力低下がみられることについては、世の中の流れは、待つはくれないが、立ち止まって考える必要があるのではないか。

伊藤委員長：「環境は人を育てる」という言葉があるが、否応なしにかかわっていかなくてはならない。何を生きる力として結び付けていくかについて関心がある。子どもたちを取り巻く環境が変化し、それに対応しなくてはならない。マイナス思考ではいけない。どうやったら力がつくかを考えていく必要がある。「不易流行」の考え方があるが、山室委員の指摘である「基礎基本の定着」「体験を通して学ぶこと」も含め、考えていかなければいけない。

和田校長：4年生は「福祉」やごみの処理の問題について、調べ学習だけではなく、実際に足を運び、目で確かめる。人とつながって学ぶ。そういう機会を大事にしたい。活用については教職員が十分留意して指導している。このようなご助言があったことは教職員にも共有していきたい。

⇒令和8年度 学校経営方針の承認がなされた。

(6) 業務量管理・健康確保措置実施計画について

和田校長：趣旨を説明。国及び県からの方針が示され、市の方でも実施計画が作成されたことを報告。

伊藤委員長：先生方の精神的、肉体的に過重な負担やプレッシャーがあるのではないかと。年々、仕事量が多くなっているのは事実。でも、健康でなければよい教育活動はできない。夢をもって教員になられたのだからこそ、労働環境が整っている必要がある。委員としてどう協力できるか、地域連携をすすめていきたい。地域に遠慮なく支援を求めてほしい。我々も子どもたちのためにより教育活動ができれば、とても嬉しい。

山室委員：全員で支援していく体制は構築できていると思うが、フルインクルーシブ教育の推進の観点から、誰一人取り残さない考え方が広まることで、教職員の仕事の量や質が増えているのではないかと。気になっている。

佐藤委員：一つひとつに割く仕事量が多くなっていくのではないかと。

和田校長：SSS（スクールサポートスタッフ）の配置や勤怠管理システムを導入している。教育の質を落としてはいけないのは事実。先ほど議論にあがった ICT の活用や学校行事の精選など、工夫を凝らして進めていきたい。

山室委員：不登校支援、教室に足が向きにくい児童への支援、学習に困難さがある児童への支援など、一つひとつどうしているのか。

坂田教頭：スペシャルサポートルームスタッフが3人おり、毎日来てくれている。児童一人ひとりと計画を立てて学習を進めている状況。担任や保護者との連携を図り、丁寧に支援を進めている。本校では、ひまわり教室と呼んでいるが、利用する児童が学習する場所や教科などを選び、学習を進めることができている。

佐藤委員：児童の支援のことを学校間で共有することはあるのか。

和田校長：校長会や教頭会では、学校ごとの現状や支援の具体例について、また、えびなっ子しあわせプランの中の授業改善推進委員会では、校内研究担当が

集まり、授業改善や研究授業の情報交換を行っている。できるだけ多くの教員で学習支援（授業交換など）にあたり、児童理解を深めていることを共有している。

（7）実施計画の作成と承認について

坂田教頭：配付資料を参照。ご意見をいただきたい。

岩崎委員：自然環境にはとても恵まれている。子どもの森を大事にしてほしい。卒業してからも大事にしてほしいという気持ちを強くもっている。

坂田教頭：昨年度の学習の取り組みから、子どもたちの愛着は深まっていると思う。子どもの森学を充実させようと教育課程を整備したことで効果が出てきているのではないかな。

山室委員：学習習慣の定着やそれが身につく取り組みについて考えていきたい。学習する場の提供（まなびっこ）は、子どもの森学と2本柱で考えていきたい。あそびっこも含めて、子どもの成長を考えていきたい。

岩崎委員：あそびっこに来る児童は宿題にすぐに取り組んでいる。習慣化している。

佐藤委員：学習習慣の定着と子どもの森学の推進はとてもよいと思う。その裾野をどう広げていくか。挙げられている課題にどう向き合うかも考えていかなければならない。例えば「読書」。朝の時間に読書に取り組んでいることは大事にしてほしい。

山田総括教諭：週2回（月・水）が原則。その他に、「おはなしたまてばこ」、「読書ボランティア」による取り組みがある。

佐藤委員：どのくらい参加しているのか。

山田総括教諭：「おはなしたまてばこ」は、学年単位で実施しているので全員。読書ボランティアによる「読み聞かせ」には、選書が児童の実態に合っていることから楽しみにしている児童が多くいる（朝は全員だが、昼実施の場合は希望者のみ）。

和田校長：市から図書支援員が派遣（週2回）されており、学校図書の活用については教職員と連携を図り、毎年、新しく本を購入することや学習環境を整えている。読書推進における市の予算も多くついているため、環境整備に努め、本に親しめるようにしていきたい。

山室委員：子どもの森学について、昨年度の取り組みも含め、ぜひ継続してほしい。体験活動は子どもの学びに効果的に、プラスに働いている。

伊藤委員長：子どもの森が残された経緯を説明。ずっと残され、大事にし、愛してくれていることに感謝している。学校の、地域の大事な財産として守って欲しくて欲しい。

和田校長：子どもの森、学習習慣と基礎・基本の定着、読書活動の推進など、話題に挙げた点を踏まえ、めざす児童像として明記していく。

年間を通した予定される会議について相談と調整がなされた。中学校区での学校運営協議会とのバランスを考え、日程を検討していくこととなった。主な議題は、学校評価、学力学習状況調査結果、開校 50 周年記念行事（令和 10 年度）について、を検討している。それとは別に、今年度予定されている音楽発表会や運動会、卒業式には、参観に来ていただきたい旨、伝えた。

（8）地域との連携について

山田 総括教諭：今年度も地域の方々の力を借りて進めていきたい。先ほど承認いただいた学校経営方針にもあるように「地域とともに」「地域の一員として」という意識で取り組んでいきたい。学校の窓口は東教諭が担当している。

佐藤委員：児童の登下校の見守りを他自治会協力のもと行っている。学校や PTA と連携して行っていきたい。

和田校長：杉久保南の地域の方々とは、安全確保について 4 月に話し合った。

岩崎委員：丸坂付近の危険性はとても高い。地域の協力が不可欠である。

佐藤委員：地域も子どもたちの安全確保に協力していきたい。

（9）1 年生の様子・スタートカリキュラムについて

和田校長：とても落ち着いて頑張っている。給食もいっぱい食べている。不安を感じる子はいるが、2 クラス全体として一生懸命、頑張っている。幼稚園や保育園との差が大きく生じないように円滑に学校教育活動が行われるようにスタートカリキュラム（教育課程）を推進している。

伊藤委員長：多くの幼稚園や保育園（広範囲）から杉久保小学校に来ている。地域のまとまりがないから連携が難しいのではないか。以前はある程度まとまっていた。

和田校長：今年度は杉久保小学校がホスト校になって、各園が 1 年生の授業の様子を参観したり、情報交換したりするなど、幼保小の連携について話し合う。

（10）その他

次回の、第 2 回学校運営協議会は、大谷中学校区学校運営協議会として、令和 8 年 6 月 18 日（木）15：00 から大谷中学校で開催予定。

[付記] 当日は、「対話の場」として教育長が参加（16：00～）される。